

# フォント選択における曲調と歌詞の複合的影響

—ボカロ曲を題材とした探索的研究—

○今田美希<sup>1</sup>・須山巨基<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>安田女子大学心理学部ビジネス心理学科)

## 目的

近年、情報技術の発展により、音楽分野においても音声合成技術を活用した表現が広がりを見せている(佐々木 2008; 佐々木・中山・真栄城 2013; 岩撫 2014)。特に VOCALOID 楽曲は、ニコニコ動画や Youtube などの動画共有プラットフォームを中心に多くの作品が投稿されており、音楽と映像が一体となった創作文化として定着しつつある。

こうした動画作品においては、楽曲の世界観や感情を視覚的に伝える手段として、フォントの使用が重要な役割を果たしている。歌詞の表示やタイトル演出に用いられるフォントは、視聴者に与える印象を左右する要素であり、投稿者は楽曲の雰囲気に合わせてフォントを選択していると考えられる。しかしながら、フォント選択が曲調や歌詞の内容とどう関係しているのかについては、これまで体系的な検討が十分に行われていない。

そこで本研究では、実際に VOCALOID 楽曲で使用されているフォントを対象に印象評定を行い、フォント印象の構造を明らかにすることを目的とした。具体的には、100 曲の VOCALOID 楽曲を対象に、使用されているフォントについて 8 つの印象項目による評定を実施し、主成分分析を用いて印象の傾向や軸を抽出した。

この分析により、フォント印象においての主要な軸が浮かび上がることで、投稿者がフォントを選ぶ際に重視している印象の傾向を把握することが可能となる。また、こうした印象を理解することで、今後楽曲に合ったフォントを選ぶ際の手がかりが得られる可能性がある。

さらに本研究では、フォント印象と楽曲の曲調(BPM)や歌詞の内容との関係についても今後の検討課題として位置付けており、視覚表現と音楽的要素のつながりをより深く理解するための基盤を築くことを目指している。

## 方法

本研究では、2011 年から 2025 年にかけて

Youtube 上に公開された VOCALOID 楽曲の中から、ランダムに 100 曲を抽出し、それぞれの動画内に使用されているフォントの印象評定を行った。対象としたフォントは、各動画内から切り抜いた「ひらがな 5 文字(あ、な、た、ぬ、め)」の画像であり、これらの文字は視覚的な比較がしやすく、また VOCALOID 楽曲の歌詞に頻繁に登場することから選定した。

フォントの印象評定は、第一著者を含む 3 名のコーダーによって実施された。評価項目は全部で 8 つであり、そのうち「太い - 細い」「丸い - 鋭い」「縦長 - 横長」「アナログ - デジタル」の 4 項目は本研究において独自に設定したものである。一方、「親しみやすい - 親しみにくい」「個性的 - 一般的」「女性的 - 男性的」「力強い - 繊細」の 4 項目については、田中他(2001)を参考にして設定した。各項目の回答は、非常に(1, 7)、かなり(2, 6)、やや(3, 5)、どちらともいえない(4)の 7 段階評定であった。

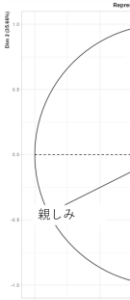
コーダー間の評価の一致度を確認するために、信頼性係数を算出した。次に、フォント印象の次元構造を明らかにするため、主成分分析を用いて次元削減を行い、2 次元空間上にプロットした。分析は、信頼性係数が高い項目のみを入れた分析と、低い項目も含めた分析を実施した。

## 結果

太さ、親しみやすさ、アナログ性、個性、力強さの 5 項目については、信頼性係数が概ね高かった( $\alpha > .80$ )のに対し、それ以外(まるさ、縦横比、性別的印象)については信頼性は低かった( $\alpha < .66$ )。そこで高かった 5 項目を用いて主成分分析を行った結果、第 1 主成分の説明率は 46.49%であり、第 2 主成分の説明率は 35.66%であった(図 1)。

第 1 主成分に関連する項目としては、太さ、親しみやすさ、そして力強さであった。よって、この第 1 主成分を「存在感」と呼ぶとした。次に第 2 主成分に関連する項目としては、アナログ性、個性であった。よって、第 2 主成分を「創造性」

図1 5項目を入れた



と呼ぶとした。

信頼性係数にかかわらず、丸さ、縦横比、性別的印象の3項目を追加した全8項目を投入した主成分分析の結果では、第1主成分の説明率は37.23%であり、第2主成分の説明率は24.14%であった(図2)。

第1主成分に関連する項目としては、太さ、親しみやすさ、力強さ、そして性別的印象であった。次に、第2主成分に関連する項目としては、アナログ性、個性、そして丸さであった。一方、縦横比は主成分空間における寄与が低く、印象構造の主成分とは言い難かった。

### 考察

本研究では、2種類の主成分分析を通して、「力強さ」と「個性」がいずれの分析でも主要な印象軸として抽出された。これはつまり、コーダー(評価者)がフォントを見る際に、これらの印象が特に意識されやすいことを示していると考えられる。

このことから、VOCALOID 楽曲に使用するフォントを選ぶ際には、「力強さ」や「個性」といった印象に気を配ることで、曲の雰囲気により合ったフォントを選べる可能性がある。今後は、フォントの印象と楽曲の曲調(BPM)や歌詞の内容との関係についても検討を進めることで、より楽曲に合ったフォント選びの可能性が広がると考えられる。

図2 8項目を入れた主成分分析の結果

